

## 日本学術会議 臨床医学委員会 脳とこころ分科会（第25期・第1回）

1. 日時 令和3年1月22日（金）16:00～18:00
2. 場所 オンライン（ZOOM）会議
3. 出席者 青木茂樹、池田和隆、池淵恵美、伊佐正、内富庸介、岡部繁男、尾崎紀夫、笠井清登、神尾陽子、萱間真美、川人光男、神庭重信、熊谷晋一郎、齊藤延人、坂田省吾、高橋英彦、高橋良輔、内匠透、戸田達史、林朗子、林由起子、坂内博子、藤井幸彦、古屋敷智之、實金清博、松井三枝、三品昌美、三島和夫、水口雅、南雅文、三村將、村井俊哉、吉田眞理、渡辺雅彦

### 3. 議題

(1) 分科会のメンバー構成について自己紹介した。

(2) 分科会委員長の選出、副委員長、幹事の選任

尾崎第2部幹事（世話人）から、日本学術会議幹事会で、コロナ禍における脳とこころの問題は24期から重要な継続テーマなので、前委員長の山脇委員に引き続き就任してもらいたいと提案があった。出席委員の賛同により山脇委員が委員長に選出された。山脇委員は、長期間にわたって同じ人物が委員長をするのは好ましくないが、幹事会の要請もあるので公開シンポジウムなど区切りのついた時点で委員長を再選出していただくという条件で就任を承諾された。引き続き、第1部会員の松井三枝委員が副委員長に、第2部連携会員の林朗子委員が幹事に選出され承認された。

(3) 第25期の活動計画

日本学術会議の任命問題を契機に、政府からタイムリーな発信がなく、存在意義が見えないなどと批判されていることを受けて、国民に見える形で機能するべきとの議論がある。日本学術会議は手続きが厳格で時間がかかり、タイムリーな緊急提言などを発出しにくい側面があるので、令和2年6月25日には、日本脳科学関連学会連合と連携して、緊急提言「新型コロナウイルス感染に係るメンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性」を発出したが、日本学術会議としての活動としては認識されていない。国民や社会のニーズに対応すべく提言や公開シンポジウムなのでもっと活動をアピールする必要があるとの議論がされた。尾崎委員から、幹事会では長期的な課題はじっくりと提言で、コロナ禍での緊急課題については、手続きが必要な提言のような形式よりも、より国民と双方向性の議論ができる公開シンポジウムなどを有効に活用することも議論されている旨の発言があった。

(4) シンポジウムについて

上記の議論を踏まえて、「脳とこころから見たWithコロナ/Postコロナ時代におけるニューノーマルの課題と展望」というテーマで6月20日、6月27日に公開シンポジウムを開催することが決定され、テーマ、演者については山脇委員長、松井副委員長、林幹事、尾崎世話人に一任された。

(5) 特任連携会員推薦

尾崎委員より、東北大震災のメンタルヘルス対応で実績のある東北大学國井泰人准教授を特任連携会員として推薦があり、承認された。

(6) その他

第2部神経科学分科会（委員長：伊佐正委員）、アディクション分科会（委員長：池田和隆委員）と連携して活動することが決定した。また、日本脳科学関連学会連合（代表：伊佐正委員）とも引き続き連携を強化していくことを決定した。